

## [019]教育経営学研究紀要目次等

<https://hdl.handle.net/2324/1807594>

---

出版情報：教育経営学研究紀要. 19, 2017-03. 九州大学大学院人間環境学府(教育学部門)教育経営学研究室/教育法制論研究室

バージョン：

権利関係：



あとがき

研究室紀要第19号(通巻27号)が完成いたしましたので、ここに謹んで皆様にお届け致します。すでにお気づきのことと思いますが、本号より教育法制研究室が単独で「教育経営学研究」というタイトルの研究室紀要を出すという変則的な事態となりました。その経緯についてはすでに以前のあとがきで触れていますが、改めて説明しておきます。私が大学院に入った頃は教育法制(神田修教授)と教育行政環境(小川正人助教授)の2つの専攻科目で教育行政学講座を構成し、「教育行政研究」という研究室紀要を毎年刊行(1986年3月～)しておりました。同紀要は2人が同時に退官、転出するまで8号を数えました(～1993年3月)。当時、教育方法学講座の高野桂一教授(教育経営)が「教育経営研究資料集成」を教育経営学研究室として刊行されており、その後任にあたる中留武昭教授(教育経営)がリストラクチャリングされた教育行政学講座に着任されてから3号まで「教育経営 教育行政学研究紀要」、その後「教育経営学研究」として教育経営(中留→八尾坂)と教育法制(篠原→元兼)の2つの研究室の共同で発刊して参りました。

今春より教育経営ポストも空席となり、教育法制研究室が単独で発行する研究室紀要のタイトルとしてふさわしいかどうか検討しましたが、院生の問題関心の広がりや時代状況に鑑み、「教育法制研究」や「教育行政学研究」の名称には戻さず、「教育経営学研究」としてこれまでを継承していく決意をしました(ただし、通巻は併記)。

かつて教育法制、教育行政、学校経営と3人体制だった九大も私一人になりましたが、今年度は出身者の畑中大路氏が長崎大学准教授に、雪丸武彦氏が大分大学准教授に、そして楊川氏が九州国際大学特任准教授にそれぞれ着任し、そうした箱崎キャンパスで苦楽を共にした修了生たちの社会的オジ(Social Uncle)機能に助けられています。博論執筆のための「飯粒(めしつぶ)の会」など院生たちへの指導体制がこれまで以上に充実して参りました。そこで審査体制も強化するため、本号より編集規程を改正し、外部査読システムを導入しております。年末年始の多用な時期に、ともすれば投稿論文よりも質の高いボリュームのある厳しい審査コメントを下された外部査読委員の先生方に心より感謝申し上げます。また、編集委員の原北祥悟、木村栞太、柴田里彩、3氏の献身的な作業のお蔭でなんとか無事に刊行することができました。ここに記して御礼申し上げます。

今年度は私が九大に着任した当時の半分まで研究費が削減されました。来年は移転費用確保などもあってさらに研究費が半減されるという話になっています。一研究室で紀要を発行できる時代ではないのかもしれませんが、一年間の研究室の個人研究活動、共同研究活動の成果の一部をこうして世に問うことは社会的責任においても重要であると考えます。ただ、ご覧のように研究駆け出しの院生を中心に構成し、研究論文も特集も査読を行った結果、不採択論文もあり、質の維持を図っているとはいえ、未熟な拙い論考ばかりです。

本研究室紀要をご高覧いただき、ぜひ忌憚のないご意見、ご批判をお寄せください。行き届かない指導を棚にあげるようで恐縮ですが、「社会的オジ」として皆様のご鞭撻によりぜひとも研究室を、若い院生たちを育てていただければと切に願っております。

2017年 節分の日に  
元兼 正浩